

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2021年10月14日
【四半期会計期間】	第22期第2四半期（自2021年6月1日 至2021年8月31日）
【会社名】	株式会社オキサイド
【英訳名】	OXIDE Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長(CEO) 古川 保典
【本店の所在の場所】	山梨県北杜市武川町牧原1747番地1
【電話番号】	0551-26-0022
【事務連絡者氏名】	取締役副社長(CFO) 管理本部長 山本 正幸
【最寄りの連絡場所】	山梨県北杜市武川町牧原1747番地1
【電話番号】	0551-26-0022
【事務連絡者氏名】	取締役副社長(CFO) 管理本部長 山本 正幸
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第22期 第2四半期累計期間	第21期
会計期間	自2021年3月1日 至2021年8月31日	自2020年3月1日 至2021年2月28日
売上高 (千円)	2,452,559	3,579,619
経常利益 (千円)	346,633	322,887
四半期(当期)純利益 (千円)	264,091	310,458
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-
資本金 (千円)	1,676,096	405,500
発行済株式総数 (株)	4,867,400	3,781,500
純資産額 (千円)	4,316,920	1,511,637
総資産額 (千円)	8,927,904	6,565,894
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	57.99	82.26
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	50.34	-
1株当たり配当額 (円)	-	-
自己資本比率 (%)	48.4	23.0
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	386,251	568,296
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	224,581	300,636
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	2,050,571	241,384
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	3,387,428	1,171,360

回次	第22期 第2四半期会計期間
会計期間	自2021年6月1日 至2021年8月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	29.35

- (注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。
4. 第21期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であったため、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。
5. 第22期第2四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、当社株式は2021年4月5日に東京証券取引所マザーズ市場に上場しており、新規上場日から第22期第2四半期会計期間の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。
6. 当社は、第21期第2四半期累計期間については四半期財務諸表を作成していないため、第21期第2四半期累計期間に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

7. 当社は、2020年11月9日開催の取締役会決議により、2020年11月27日付で普通株式1株につき500株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期（当期）純利益を算定しております。
8. 1株当たり配当額については、配当を行っていないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第2四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。なお、当社は、前第2四半期累計期間については四半期財務諸表を作成していないため、前年同四半期累計期間との比較分析は行っておりません。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期累計期間における世界経済は、新型コロナウイルスワクチン接種の進展に伴う経済活動の再開により回復基調となっております。これに対し日本経済は、新型コロナウイルスワクチン接種の遅れなどから新型コロナウイルス感染症の第5波が拡大し、主要都道府県に再度の緊急事態宣言が発出され、経済活動の停滞は避けられない状況となっております。

このような状況の中、当社の当第2四半期累計期間は、新型コロナウイルス感染症による影響は軽微であり、売上は概ね順調に推移しました。製品の市場別では、ヘルスケア事業においては、PET装置向けのシンチレータ単結晶の売上が前事業年度後半の水準を維持しました。光計測・新領域事業においては、一部製品で納品の延伸が発生するも概ね堅調に推移しました。半導体事業においても、単結晶、レーザ装置がともに前事業年度後半に引き続き好調を持続しました。

その結果、当第2四半期累計期間の売上高は2,452百万円、営業利益は338百万円、経常利益は346百万円、四半期純利益は264百万円となりました。

なお、当社は、光学事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

#### (資産)

当第2四半期会計期間末における総資産につきましては、前事業年度末に比べ2,362百万円増加し、8,927百万円となりました。これは主に、東京証券取引所マザーズへの上場に伴う公募増資及び第三者割当増資等により、現金及び預金が2,206百万円増加したことによるものであります。

#### (負債)

当第2四半期会計期間末における負債につきましては、前事業年度末に比べ443百万円減少し、4,610百万円となりました。これは主に、短期借入金が300百万円、長期借入金が138百万円減少したことによるものであります。

#### (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産につきましては、前事業年度末に比べ2,805百万円増加し、4,316百万円となりました。これは主に、東京証券取引所マザーズへの上場に伴う公募増資及び第三者割当増資等により資本金が1,270百万円、資本準備金が1,270百万円増加したことによるものであります。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前事業年度末に比べ2,216百万円増加し、3,387百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は386百万円となりました。これは主に税引前四半期純利益346百万円、減価償却費125百万円、売上債権の減少額115百万円が生じた一方で、未払金の減少額69百万円、前受金の減少額50百万円、たな卸資産の増加額82百万円、法人税等の支払額43百万円が生じたこと等によるものであります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果減少した資金は224百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出208百万円、無形固定資産の取得による支出26百万円が生じたこと等によるものであります。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果増加した資金は2,050百万円となりました。これは主に株式の発行による収入2,527百万円が生じた一方で、短期借入金の純減少額による支出300百万円、長期借入金の返済による支出145百万円が生じたこと等によるものであります。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期累計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期累計期間において、当社が優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第2四半期累計期間における研究開発活動の金額は152百万円であります。

なお、当第2四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,000,000
計	10,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2021年8月31日)	提出日現在発行数(株) (2021年10月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,867,400	4,872,400	東京証券取引所 (マザーズ)	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、単元株式数は100株であります。
計	4,867,400	4,872,400	-	-

(注) 1. 2021年9月1日から2021年9月30日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が5,000株増加しております。

2. 「提出日現在発行数」欄には、2021年10月1日から本四半期報告書提出日までの新株予約権行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2021年6月1日～ 2021年8月31日 (注)1	153,000	4,867,400	84,150	1,676,096	84,150	2,132,918

(注)1. 新株予約権の行使による増加であります。

2. 2021年9月1日から2021年9月30日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が5,000株、資本金及び資本準備金がそれぞれ2,750千円増加しております。

(5) 【大株主の状況】

2021年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
古川 保典	東京都港区	373	7.67
エヌ・ティ・ティ・アドバンス テクノロジー株式会社	神奈川県川崎市幸区大宮町1310	335	6.88
株式会社日立ハイテク	東京都港区虎ノ門一丁目17番1号	280	5.75
NTTファイナンス株式会社	東京都港区港南一丁目2番70号	250	5.13
KLA-TENCOR(SINGAPORE)PTE,LTD	NO.4 SERANGOON NORTH AVE 5 SINGAPORE 554532	205	4.21
KT VENTURE GROUP, L.L.C.	ONE TECHNOLOGY DRIVE, MILPITAS, CALIFORNIA 95035 U.S.A	125	2.57
株式会社ニコン	東京都港区港南二丁目15番3号	125	2.56
レーザーテック株式会社	神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目10番1号	125	2.56
山梨中銀経営コンサルティング株式会社	山梨県甲府市丸の内一丁目20番8号	107	2.19
株式会社日本カストディ銀行 (証券投資信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	105	2.15
計	-	2,031	41.73

( 6 ) 【議決権の状況】  
【発行済株式】

2021年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,862,900	48,629	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 4,500	-	-
発行済株式総数	4,867,400	-	-
総株主の議決権	-	48,629	-

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

なお、当四半期報告書は、第2四半期に係る最初に提出する四半期報告書であるため、前年同四半期との対比は行っておりません。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（2021年6月1日から2021年8月31日まで）及び第2四半期累計期間（2021年3月1日から2021年8月31日まで）に係る四半期財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

## 1【四半期財務諸表】

## (1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年2月28日)	当第2四半期会計期間 (2021年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,181,360	3,387,428
受取手形及び売掛金	771,007	655,601
製品	43,133	32,648
仕掛品	926,778	986,861
原材料及び貯蔵品	396,021	428,486
その他	113,974	112,429
流動資産合計	3,432,276	5,603,456
固定資産		
有形固定資産		
機械及び装置	2,762,815	2,931,466
減価償却累計額	856,130	911,178
機械及び装置(純額)	1,906,684	2,020,288
その他	1,764,306	1,844,103
減価償却累計額	806,180	866,130
その他(純額)	958,126	977,973
有形固定資産合計	2,864,810	2,998,261
無形固定資産	62,317	78,660
投資その他の資産	206,490	247,525
固定資産合計	3,133,618	3,324,447
資産合計	6,565,894	8,927,904
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	194,981	229,262
短期借入金	850,000	550,000
1年内償還予定の社債	23,000	16,000
1年内返済予定の長期借入金	275,972	268,758
未払法人税等	56,589	147,221
賞与引当金	85,000	98,000
修繕引当金	207,504	225,280
製品保証引当金	11,820	11,820
その他	709,080	577,432
流動負債合計	2,413,947	2,123,774
固定負債		
社債	175,500	172,000
長期借入金	2,430,183	2,291,675
その他	34,627	23,533
固定負債合計	2,640,310	2,487,208
負債合計	5,054,257	4,610,983
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	405,500	1,676,096
資本剰余金	862,322	2,132,918
利益剰余金	243,814	507,905
株主資本合計	1,511,637	4,316,920
純資産合計	1,511,637	4,316,920
負債純資産合計	6,565,894	8,927,904

( 2 ) 【四半期損益計算書】  
【第2四半期累計期間】

( 単位：千円 )

	当第2四半期累計期間 (自2021年3月1日 至2021年8月31日)
売上高	2,452,559
売上原価	1,636,457
売上総利益	816,102
販売費及び一般管理費	477,490
営業利益	338,611
営業外収益	
受取利息	59
補助金収入	48,387
その他	13,011
営業外収益合計	61,458
営業外費用	
支払利息	26,578
株式交付費	13,709
上場関連費用	11,717
その他	1,432
営業外費用合計	53,437
経常利益	346,633
税引前四半期純利益	346,633
法人税、住民税及び事業税	126,425
法人税等調整額	43,883
法人税等合計	82,542
四半期純利益	264,091

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第2四半期累計期間  
(自2021年3月1日  
至2021年8月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	346,633
減価償却費	125,330
のれん償却額	644
賞与引当金の増減額(は減少)	13,000
修繕引当金の増減額(は減少)	17,776
未収入金の増減額(は増加)	2,226
未払金の増減額(は減少)	69,190
前受金の増減額(は減少)	50,337
為替差損益(は益)	3,825
受取利息	59
支払利息	26,578
売上債権の増減額(は増加)	115,405
たな卸資産の増減額(は増加)	82,063
仕入債務の増減額(は減少)	34,281
その他	11,947
小計	459,999
利息の受取額	59
利息の支払額	30,021
法人税等の支払額	43,786
営業活動によるキャッシュ・フロー	386,251
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	208,089
無形固定資産の取得による支出	26,281
敷金及び保証金の差入による支出	210
担保預金の解約による収入	10,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	224,581
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額(は減少)	300,000
長期借入金の返済による支出	145,722
社債の償還による支出	10,500
株式の発行による収入	2,527,482
リース債務の返済による支出	1,548
割賦債務の返済による支出	19,140
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,050,571
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,825
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,216,067
現金及び現金同等物の期首残高	1,171,360
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,387,428

## 【注記事項】

## (追加情報)

## (新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積り)

当社では、固定資産の減損会計等の会計上の見積りについて、四半期財務諸表作成時において入手可能な情報に基づき実施しております。新型コロナウイルス感染症の拡大による当社への影響は現時点で限定的であり、当事業年度の見積りに大きな影響を与えるものではないと判断しております。

## (四半期貸借対照表関係)

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行5行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (2021年2月28日)	当第2四半期会計期間 (2021年8月31日)
当座貸越極度額	1,050,000千円	1,050,000千円
借入実行残高	850,000 "	550,000 "
差引額	200,000千円	500,000千円

## (四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	当第2四半期累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)
役員報酬	67,760千円
給料及び手当	67,529
賞与引当金繰入額	4,184
支払手数料	48,414
減価償却費	9,449
のれん償却額	644
研究開発費	152,416

## (四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	当第2四半期累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)
現金及び預金勘定	3,387,428千円
現金及び現金同等物	3,387,428千円

(株主資本等関係)

当第2四半期累計期間(自2021年3月1日 至2021年8月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2021年4月5日をもって東京証券取引所マザーズ市場に上場いたしました。上場にあたり、2021年4月4日を払込期日とする有償一般募集増資による新株式750,000株の発行により、資本金及び資本準備金はそれぞれ966,000千円増加しております。また、2021年5月7日を払込期日とする有償第三者割当増資(オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資)による新株式162,400株の発行により、資本金及び資本準備金はそれぞれ209,171千円増加しております。

さらに当第2四半期累計期間において新株予約権の行使による払込みにより、資本金及び資本準備金がそれぞれ95,425千円増加しております。

この結果、当第2四半期会計期間末において資本金が1,676,096千円、資本剰余金が2,132,918千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期累計期間(自2021年3月1日 至2021年8月31日)

当社は光学事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は以下のとおりであります。

	当第2四半期累計期間 (自2021年3月1日 至2021年8月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	57円99銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益(千円)	264,091
普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る四半期純利益(千円)	264,091
普通株式の期中平均株式数(株)	4,553,882
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	50円34銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益調整額(千円)	-
普通株式増加数(株)	691,705
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、当社株式は2021年4月5日に東京証券取引所マザーズ市場に上場しており、新規上場日から当第2四半期会計期間の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年10月14日

株式会社オキサイド

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 藤本 浩巳 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 堤 康 印

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社オキサイドの2021年3月1日から2022年2月28日までの第22期事業年度の第2四半期会計期間（2021年6月1日から2021年8月31日まで）及び第2四半期累計期間（2021年3月1日から2021年8月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社オキサイドの2021年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。